会員と千葉県連をつなぐ

ちばニュース

2011年 **5月号**

千葉県勤労者山岳連盟

Chiba Workers Alpine Federation

2011年5月10日発行　通巻217号（毎月1回発行）

励ましを送ろう　東北の仲間に

支援活動に参加しよう

５月号目次

私の一名山	「東北の山	シリウス山の会	佐藤安行	３
大震災派遣	第２陣支援隊報告	千葉県連理事長	吉田哲治	５
大震災派遣	ボランティア参加感想	東葛山の会	高見信明	７
〃	〃		Ｙ・Ｏ	８
〃	〃	まつど山の会	選抜７名	１０
〃	〃	山の会「岳樺クラブ」	徳永和也	１２
〃	〃	ＡＣＴ峰友	小谷直行	１４
委員会報告	第１回教遭委員会・第１回拡大検討部会			１５
〃	第２回ハイキング委員会			１６
〃	第２回救助隊報告・第２回自然保護委員会			１７
〃	クリーンハイクｉｎ江戸川河川敷		まつど山の会	１８
〃	自然保護委員会活動報告			１９
お知らせ	労山ガイド完成			２０
県連たより				２１
県連予定表				２２

表紙コメント

「２００３年の創立以来、忘年山行は大事な行事として毎年欠かさずに行ってきました。加仁湯温泉に泊まり鬼怒沼まで歩くコース、まったりの朝風呂、今日は歩かなくても・・・いやいや・・シリウスは山の会です」

東北の山

シリウス☆山の会　佐藤　安行

生まれ故郷、ふるさとの山は栗駒山である。東北の山はおおらかで、優しい姿を持っている。東北の人々の、語りから地元の山をこよなく愛していることが伝わってくる。
秋田県、象潟駅ホームにある売店のおばさんが「鳥海山、いいべ、いいべ」という。
青森県、弘前駅に向かうバスの中、客は私とおばぁちゃんの２人「こごは、うだっこのとおり何もね」この後の方言は思い出せないが、「雪は深いが温泉と岩木山はいい」としきりに言っていた。
津軽富士、朝虫温泉から見る岩木山、すそ野に夕日が沈んでいく。これはと思い次の年（2009 年 8 月）頂上から津軽平野を見たく計画したが、天候が悪く 9 合目避難小屋に泊まり引き返した。奥羽本線、弘前から青森に向かう車窓からの田んぼと岩木山も絵になる。

八甲田山、秋田駒が岳、鳥海山、焼石岳、磐梯山、安達太良山、飯豊、朝日岳、なかでも秋田駒、鳥海、安達太良にはよく足を運んだ。

裏岩手縦走、2009 年単独、2010 年 2 名で歩いた。夜行バスで盛岡に入りさらにバスを乗り継ぎ八幡平、避難小屋 2 泊の山行である。09 年の時は、ビジターセンターで確認「もしかしたら水は出ていないかも」といわれ 2 日分持った。重いけど安心料だと思えばいい。2 回とも縦走組みは我々のみ、小屋 1 泊の地元の人達が多い。避難小屋は降雪の関係か、ログタイプのがっしりした作りが大半。大深山荘避難小屋から岩手山を目指して南側に歩く、この縦走コース最大のポイントは比較的平坦な稜線歩きが楽しめ、東西の展望が素晴らしい。朝日に照らされる岩手山、反対側には秋田駒が岳と乳頭山、山間から湯気が立ちあがっている。

乳頭山について岩手県と秋田県では、山の呼び名がそれぞれに違う。秋田県では乳頭山と呼ぶが、同じ山でも岩手県では烏帽子岳と呼び昭文社の地図にもふたつの名が記載されている。松川温泉から短時間で大深山荘避難小屋まで入れるためか、八幡平から歩く人は少ない。このコース、２日目の歩きが約 11 時間と長い。しかし稜線歩きが主で展望も素晴らしく疲れを忘れさせてくれる。10 月の三ツ石山付近は紅葉が真っ盛り、目の前には遮るものは何もなく大きな岩手山がどんと構え、振り返えれば秋田駒が岳の勇姿。山に来てよかったと思う瞬間だ、と同時に癒しと時間を求めている。

歩くメンバーによって休憩の取り方を決める。休みたくなったら何となく休むという山行が多い。コーヒーを飲みながら、前年の秋田駒から岩手山を眺めていたことを思い出す。
今年は、岩手山から秋田駒が岳に広がる赤い夕焼け雲、感動すら覚える。
私には、自信をもって「ここが一名山だ」と呼べる山がない、又こだわりもない。
ただひとつ言えることは、穂高のような岩稜の山も魅力、しかし優しい姿を持つ東北の山に心を惹かれる。
八甲田の避難小屋には、春スキーで利用される人達へと題して「灯油 2 リッター持参して下さい」の張り紙があった。

「私の一名山」　原稿募集のお知らせ
ちばニュースの表紙は、各会・会員から寄せられた写真です。今までの山行で印象に残っている山・山行を紹介していただいています。
「私の一名山」とは、
百名山・有名な山・人気の山等にとらわれずに、大事にしている想い出の山
あなたが大事にしている山、を「私の一名山」として紹介して下さい。
紹介が決まっている会は、
６月号　成田ラテルネ山の会
７月号　市川山の会
８月号　まつど山翠会
９月号　まつど岳人倶楽部
これで、全会からの紹介をいただきました。
引き続き、会員個人からの取って置きの山の紹介をお願いします。

東日本大震災　第2陣人的支援活動（石巻）報告

千葉県連盟理事長　吉田　哲治

日時　　2011年4月9日（土）～11日（月）（一部の会は10日まで）
場所　　宮城県気仙沼市唐桑、石巻市（石巻専修大学キャンパス）
参加会　松戸山の会（7名）、ふわくﾊｲｷﾝｸﾞｻｰｸﾙ（4名）（以上は気仙沼にて活動）、東葛山の会（4名）、君津ケルン山の会（2名）、山の会「岳樺クラブ」（1名）、まつど遠足クラブ（1名）、ACT峰友（2名）、船橋勤労者山の会（4名）（以上は石巻にて活動）
以上　25名

行動概要

4月8日（金）　21：00松戸市民劇場前集合、自己紹介後21：15出発（車6台）
南三郷IC～一関IC経由唐桑半島へ。途中、安達太良SAで仮眠。

4月9日（土）　10：00着。テント設営後、海岸亭2階にて全体ミーティング（午後からの作業は雨のため中止）。石巻にて人手が必要とのことで、6会とちば山の会（先発で来ていた10名中3名）は翌日石巻に向かうことが決定。その後終日自由時間。

4月10日（日）　6：00石巻へ出発。石巻専修大学8：15着。受付を済ませ、マイクロバスで石巻駅前へ。
10：30～15：30　市内繁華街の通路のヘドロ撤去や、個人宅の不要な畳や家財道具などの運び出し作業を行う。東葛山の会、ちば山の会はこの日で帰宅。
16：30　専修大学着。

4月11日（月）　8：30テント等撤収後、ヨークベニマル（スーパー）駐車場へ向かう。
10：00～12：00　個人宅のガレージを中心に不要物の撤去作業。
14：00　入浴後解散。

未曾有の東日本大震災から1月がたった。震災直後、今我々がやるべきこと、やらなければならない事は何か、役員会、理事会で議論を重ねてきた。悲惨な現実がテレビの画面を通して伝わってくる。すぐにでも現地に飛んで行って被災された方のお手伝いをしたい。みなさんそう思うものの、しかしながら現地への交通網はまだ復旧されておらず、受入れ体制も整っていない。こんな中でゲリラ的に行っても迷惑になるだけ。悔しいが、時はまだ我々が動くことを許してはいなかった。

そして、広木会長を通じて栃木県連の支援活動を知る。気仙沼の唐桑半島の海岸亭というレストハウスをベースに支援活動を行うというもの。千葉県連としても是非協力させて欲しいと、現地本部長の森救助隊長に申し出たところ快諾をいただいた。

早速協力体制を組み、まずは第1陣として4月7日～10日でちば山の会より10名が現地入りした。第2陣として8つの会より25名が松戸の市民劇場前に集合した。

実は出発の前日（7 日）に大規模な余震（M7.1）があり、東北道は古川以北は通行止め、停電になりガソリンスタンドは休業との報道がある。さて出発はどうしたものかと思案していたが、松戸に集合した 25 名の意思は固く、とにかくたどり着けるところまで行こう、と不安を抱えながらも松戸を後にした。幸い、安達太良 SA で仮眠している間に通行止めは解除になり、無事海岸亭に到着することができた。

ヨシキスポーツ様よりの支援物資を現地本部に届け、さあ、仕事するぞ、と意気込んで着いたものの、生憎の雨で午後の作業は中止となる。14 時より海岸亭で全体ミーティング、注意事項等の説明があったものの、石巻でも人手が必要とのことで、東葛山の会、君津ケルン山の会、山の会「岳樺クラブ」、まつど遠足クラブ、ACT 峰友、船橋勤労者山の会、ちば山の会（先発で来ていた 10 名中 3 名）は翌日石巻に向かう事が決定。後は終日自由時間となる。

辺りを散策するが、とてもあのような大津波が来たと思えないような静かな時がそこにはあった。

翌日は現地の集合時間が 8：30 ということで車を飛ばし、8：15 に着。すでに多くのボランティアが作業の準備をしていた。

具体的な作業内容は参加された各会からあると思うので私からは割愛させていただく。
一言述べさせてもらえれば、気仙沼の惨状もそうだったが、石巻の現状も悲惨という言葉が虚しくなるくらいの、それこそ衝撃的な現実がそこにはあった。テレビでは決して知ることのできない、切り取られた画面からは想像もできない世界である。

それでも、お手伝いさせていただいた家の方は前を向いて動き出している、けっして後ろ向きではなく、未来に向かって歩き出している、そう感じることができたのは幸いだった。各会の方も参加して本当によかったと言ってくれたのは、同じ気持ちだったからだろう。

これからも物的な支援はもとより、人的な支援も続きます。今後ともご協力よろしくお願いいたします。

【御礼】

気仙沼への人的支援にあたり、ヨシキスポーツ様から下記の支援物資を提供していただきました。ありがとうございました。

・東日本大震災 支援協賛 ソックス 600 足
・東日本大震災 支援協賛 水に流せるティッシュ 500 個

千葉県連盟は、各会の皆さんのご協力をいただき、気仙沼・石巻に支援隊を派遣しています。
被災地では、多くのボランティア活動が行われています。しかし、被災地の現状は依然として回復していません。長期の支援が必要です。
引き続き支援活動に参加・協力をお願いします。

ボランティアに参加して

東葛山の会　　高見信明

3 月 11 日　東日本大震災、青森県から千葉県の太平洋沿岸に未曾有の被害をもたらした大津波と、とどまる先の見えない福島第一原発の惨事、これからどうなる。そんなおり県連より被災地支援要請があり、4 月 3 日（日）会の例会に於いて 4 名の参加申し出があった。広木会長、吉田理事長と連絡を取り宮城県の気仙沼市唐桑半島へ行くことが決まった。

震災地でのボランティアは初体験、現地はどのような状況なのか、どんな作業、手伝いをするのか、出発までに二度の打ち合わせを行う。

前日に大きな余震があり、東北道の古川～～花巻間が通行止めとなるが、松戸に集結した各会の意志は「まず行こう」であった。高速道路もいたるところで段差があり、車がバウンドし、これからの行動も含め緊張の出発であった。

気仙沼・・・・・一関から気仙沼に向かう道路からは大きな被災の跡は見られなかった。やはり今回の震災は津波の被害が圧倒的であったのだろう。

気仙沼に入っても海から遠く離れた国道では、テレビ、新聞で見られるような悲惨な所は見受けられなかった。唐桑半島に入り海に近くなると、道路を挟んで海側から陸側にいたるまで、家が倒れたり、潰れたり、流されたりと悲惨な爪痕を始めてみた。

目的地の「海岸亭」までは被災の所は見ることは無かった。九日のボランティアは午前中に終了していた。

翌十日は、石巻に急遽変更となり唐桑半島の被災地を見ることになった。

小鮪（おだち）地区という漁港に案内された。まさにこれが津波の惨状を目のあたりにした。半島の小さな漁港、海に面した家々は見る影も無く潰れ、倒れ、流され、車が逆立ち，電柱、電線に漁具の丸い浮きが引っ掛かっていた。

津波の高さが想像される。真黒に焼け、対岸に打ちあげられた大型漁船、海に面した低い所の建物はすべて破壊されている。少し高い所に建つ家は何でもないようであった。運命の境目を感じる。

石巻・・・・・石巻駅前には大勢のボランティアが集まっていた。

千葉労山は、石巻に近い繁華街の道路整備の作業、新品のスコップを持ち、被害区域に入る。駅、市役所が所在する中心街が、津波による床上浸水で街の機能が麻痺、震災から一ヶ月となるのに主道路は復旧しているが、生活道路は何処もガレキの山とヘドロで一杯。やっとボランティアの手が入ったことを感じる。重機が入れる場所まで、家電製品と一般家具類を運び出す。

次はヘドロとの戦い、72 歳の体にはキツイ。

若い学生達もかなり参加して頑張っている。一本の生活道路を復旧させるには明日も

人海戦術が行われるであろう、今日帰るのが非常に残念である。

雑感・・・・・夜中に家に帰り入浴後、いつも通り一杯を始めた。新聞に目を通すと石巻沿岸の大川小学校で 108 人の在籍児童のうち死者 64 人、行方不明 10 人、七割が犠牲。あまりにも悲惨な記事を読むうち、酒が飲めなくなった。

さっちゃんはね・・・

2011 年 5 月 3 日　Ｙ・Ｏ

　月に一回の通院日の際、ドクターから「何かあった？」と聞かれた。いつものことだから、4 月のはじめに気仙沼にボランティアに行ってきたと言ったら、「えらかったね」とほめられた。三陸地方は、いろいろな縁があり、私にとってはとても大切なところだ。何かできないかと思っていたら、県連からの呼びかけがあったのですぐに応じたのだった。どんな場所なのか、何ができるのかもわからずに。
「どんなことしてきたの？」と問われるままに、家財道具の搬出活動や、瓦礫の中から家族が大切にしているものを探し出す作業をしたと話した。遺体捜索を頼まれて、チェンソーやカケヤを使った家屋の解体作業にも参加したと話した。そこには、土台だけ残して、何も無い家、津波に流されてまったく違う場所に傾いて立っている家、屋根だけ残しつぶれている家などがあった。電柱がへし折れていたり、車があっちこっちにひっくり返ったりもしていて、見ているだけでもつらかった。だから、言われるままに男も女も、一斉に作業に取り掛かったのだった。鮪立（しびたち）という小さな漁村だった。
　「それはあなたのすることじゃあないでしょう。専門家のする仕事よ。マスクだってぜんぜん違うのよ。これでまた、あ～あ肺の患者が増えるのよ」当日の血圧測定値が高かったこともあり、彼女から「い～い？ドクターストップをかけるからね。また行くのは絶対だめだからね。現地で何かあったらみんなに迷惑かけるでしょ。」と宣言された。
ついでに、初めて高血圧のための薬まで処方されてしまった。それから 1 週間後、前回処方していただくのを忘れていた頭痛薬を頼みに行った際、「高血圧の薬をいただいたおかげで、血圧が下がったようです。」と記録を示し、また、現地に行きたいと許可を求めたら、「そうね、血圧が下がったみたいだし」と無理をしないことを条件に、行くことを認めてくれた。
彼女の曰く「い～い、いろいろな大変なことは、若い人にやってもらうのよ」
わたしより若い人って誰かな？と思ったが、その言葉を背に「やった！」と病院を辞した。

２回目のボランティア活動は、津波が床上まで来た家屋の復旧作業だった。ここのお宅は、前回と違い家がそのまま残っていた。修復すればまた住むこともできそうだ。家の壁には、わたしの背丈ほどのところに津波が来た証拠が残されていた。前回とは、全く違う雰囲気だ。人がそこに生活しているという実感があった。前回は、それを感じられなかったのだ。男たちは、床板をのこぎりで切り、バールではがして床下に積もった汚泥をはがして搬出し、消毒のための石灰をまく仕事。女性たちは、建具や食器類をきれいに洗ってまた使えるようする仕事だ。みんななんて勇敢なんだろうと思いながら作業した。
帰って、ドクターに報告したら「そんな消毒も済んでいないところにはいっていくなんて無謀すぎるでしょ」と注意されるだろうなと思いながら、マスクを何回もかけなおしながら作業した。
　私たちのベースキャンプは、唐桑半島にある有名な観光地の駐車場だ。そこに一頭のワンちゃんがいた。名前は、幸子。初めは、なじめずにすぐに小屋に逃げ込んでいた。犬好きな人が多かったのか、なれて甘えるようになった。わたしは、人間とはあまり上手な話ができないから、被災した方々に、「元気出して」とか「頑張って」などとは全く言えず、頭を下げてくるしかなかった。全く気がきかないのだ。
さっちゃんとは、お互いに無口で済んだ。時間があるとさっちゃんとあちこち散歩に行った。ヒビ割れして、段差のついた道路を案内してもらった。そのうち、夜明けとともに吠え出して散歩をせがむようになった。「うるさいわねえ」と怒っている人もいたが、朝早くから散歩させてくれた人もいたらしい。わたしは、ぐっすりと眠っていた。
チャンスがあれば、彼女に、また会いにいこうと思っている。彼女は、覚えていてくれるだろうか？

津波で打ち上げられた乗用車

破壊されガレキの山と化した家屋

～ボランティア活動に参加して～松戸山の会

吉田年江

車中から見た気仙沼の河口は震災当時見た光景とそっくり同じ。ほとんど建物が残らず、一面の荒野がそのままうち捨てられ状態。あれから一ヶ月たっているのになぜ？なぜなの？私の頭ではとうてい理解できず呆然とした。まだまだ救援の手がここまできてないのだ。ぼんぼん投げられていく品々、うず高く積まれゴミの山と化した家財道具。それらをどんな気持ちで見ているのだろう。どんなにか悔しいだろう。どんなにかむなしいだろう。そしてこれからの生活がどんなに不安か。じっと立ち尽くす硬い表情からは私などがうかがいきれない思いがうずまいているのだろう。

今私たちにできることはただみんな黙々と働くこと。家の中のものを外に運び出し大事なものや思い出の品を探すこと。行方不明のおじいちゃんは住んでいた家の中からはとうとう発見できなかった。海に流されてしまったのだろうか。じっと耐えている連れ合いのおばあちゃんの表情からも無念さが伝わってくるようだった。

あの場に立ち会った一人として、この光景をいつまでも忘れまい。どんなに小さいことでも息長く自分にできることをやって、支えていきたい。そしてできるだけ多くの人と、みんなでできることをやって被災した人たちを支えられたらと思った。

細谷俊之

震災から１ヶ月を経過しても全く復興の目途が立っていない状況だった。

「自分に何が出来るか？」と考え、躊躇する前に現地に行きましょう。

人手が圧倒的に足らないようです。そして現地を訪れることだけでも、被災者の方を励まし勇気付ける立派なボランティア活動だと感じた。機会があれば、また参加したいと思っています。

渡辺敦子

テレビの映像とは違い、生で見る現地の状況は悲惨です。「いつ復興できるのだろうか？」と正直思っています。

3 月 11 日の地震が起きる前までは使っていたであろう食器、洋服、本、家財道具・・あらゆるものを外へ投げます。「中のものをすべて出す」ことが私たちボランティアへの依頼とはいえ、心が痛みます。見ず知らずの何人もの人間が土足で入り、自分たちのものを運びだしている様を見ている被災者のことを思うと辛くてたまりません。

「大切なものはあらかじめ運び出している・・・」といっても作業中には、いろいろなものが出てきます。子供の手形、足形、七五三の晴れ着をまとった写真、中身が入ったままのランドセル、色鉛筆、通信簿・・・「お子さんは無事だったのだろうか？」

「おじいちゃんがこの下にいるかもしれない」震災から１か月経つとそれなりの臭いがしてきますが、その臭いはおじいちゃんではなく、愛犬でした。

びしょ濡れになった布の切れ端、着物、反物、この方たちにとってはどれもこれも思い出の品々です。「ありがとうございました。」と言って手を合わす被災した人たちに私たちはどれだけお役に立てたのだろうか？

渡部秀美

今回第一陣として、行かせていただきました。
実際、現地に行って見て感じたことは、本当に凄い事が起こったんだと思いました。元から折れた電柱、逆さまになった家、車、基礎だけをこいて無くなった家もありました。一か月が経っても手つかずのままです。主な仕事としては、家中の物だしと、ガレキの撤去でした。これから二陣、三陣と続けていただけたらと思います。ありがとうございました。

加倉井隆彦

今回、東日本大震災の復興支援に対しての千葉県連松戸山の会ボランテアに参加させて頂きまして有り難うございました。
参加するにあたり被災地を一度視てみたいという興味本位も多少あったかも知れませんが、実際に被災地を見た時、口に出せない程の衝撃を受け溢れ出てくる涙を抑えることが出来ませんでした。
自宅を押し潰されて未だお爺さんが見つかって無いと・只茫然と自宅を眺めながら瞼を拭う孫らしき青年の姿に慰めの言葉もかけることが出来ませんでしたが・・・。
労山山岳会の一心に励む直向きな姿に救われた気がします。
帰りにまた来ますと心に誓った・・・

保坂寿恵

震災支援ボランテイアに参加させて頂き　新聞、テレビ等で見る光景は同じでも現地で直に見る光景は胸締め付けられる思いでした。
私達は家の後片付けと言う事で被災者宅へ行き　1ケ月そのままと言う事に驚きました。
やはり若い人や男の人が必要だとは思いますが私の年齢になっても手伝える事があるので多くの人が参加して長く続けられたらと思っています。
東北は遠かったです　車を運転して頂いた方には感謝です。

岩淵久道

千葉県連傘下の山岳会の仲間と一緒に気仙沼へと向かいました。
作業の現場は気仙沼の近くにある鮪立（しびたち）という漁村で、震災から1カ月もたっているにもかかわらず津波で押しつぶされた無残な光景が広がっています。ここでは3月11日から時間が停まっているかのようです。
現地でボランティアとのパイプ役となっている女性のお話では津波は2階の屋根までやってきたと言います。倒壊した家、建っていたところから数十メートルも流された家、完全に逆さにひっくり返った家、逆立ちしている乗用車などなど・・。岸壁には転覆した磯舟や火災で真っ黒焦げになった大型漁船など、俄かには信じがたい光景が続いていました。作業は被災された住宅の荷物出しや、写真や通帳、免許証など大切なもの探しなどです。
僅かかも知れませんが多少は被災された方のお役にたったと思います。帰りには家の方に「ありがとう、頑張ります・・・」の一声を頂きました。

「今、やらなきゃいけないこと」

岳樺「山の会」徳永　和也

はじめに。
東日本大震災により被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。
小生、筆不精です。駄文、不適切な表現があるかもしれません。どうぞお許しください。
すこし遡って、２月から国立国会図書館のコンピュータシステムリプレースで永田町と日本橋を行き来していました。生憎にも、焦げ付きプロジェクトのマネージャーなので、週に１度家に帰れるかどうかの状態で 3/11 の地震がきたわけです。
最近はセキュリティがうるさく、デスク室から外に出るのにミューチップカードでドアを開け、指静脈認証で２つ目のドアを開け、更に別のミューチップカードでドアを開けなければなりません。ですので、地震がきたと同時にそれぞれのドアを開け、脱出ルートを確保したのですが、窓から見えるビル群が気持ち悪いぐらいに揺れているのが見え、「こりゃヤバイ」「家族は？仲間は？」と色んなことが頭をよぎりました。その日は仕事にならず、かといって交通網はグダグダですし。家族や仲間の安否確認を取って日本橋から松戸までテクテク歩いたところ運よくタクシーがつかまり、その日のうちに帰宅できました。
翌週からも普通に仕事をしており、色んな報道のなか「予備自衛隊からの招集命令はこないのか」「僕になにができるだろうか」などと思いふけっているところに、千葉労山からの支援隊発足の話があり、即行参加しました。
９日午前に気仙沼到着。ベースキャンプのある唐桑半島の外海側高台から見る海は静かで美しく、あの街並みを飲み込んだとは思えない。
予定している作業は、被災者宅で位牌などの大事な物を瓦礫から探し出すことが主でしたが、この日は雨の為作業中止となりました。
ベースキャンプでは、新たな課題が来ていました。石巻の道路上の瓦礫が酷く、人手が足りないらしい。気仙沼作業より男手が必要とのことで、僕も迷わず手をあげた。
佐藤さん＠ＡＣＴ峰友の友人が気仙沼に住んでいらして、大震災後連絡が取れないとのことで、午後、気仙沼市街に行った。
しかし、友人のお宅、その付近一帯がなくなっていた。「せめて・・・」と肩を落とし、声を震わせていた佐藤さんに何も声を掛けられなかった。
気仙沼の街跡を目の当たりにし、事態の大きさを改めて感じたのと同時に僕にできる事を精一杯やろうと誓った。
１０日は朝６時に気仙沼を出発し、８時に石巻専修大学にベースを移した。
石巻市内の飲み屋街通り（セブン通り？）の瓦礫撤去作業を全国から集まったボランティア１００人ぐらいで実施。１日かけて、やっと１００m片付いた。
この日は菅首相が石巻市にきたらしいけど、僕らには関係ない。
遠くの方では遺体が発見されたらしく、自衛隊のヘリがうるさい。

ヘドロと、魚介類、食肉、卵らの腐敗臭が激しいなか、なんとか事故もなく今日の作業を終えた。
最後、通りの奥の立派な民家のおばあさんのお手伝いをしたら、涙を浮かべ、何度も何度も「ありがとうございました」と言われたことがすごく印象的だった。
ベースキャンプに戻り、この臭いのなか、船山と峰友のみなさんとでディナーと酒を（ささやかながら？）楽しませてもらった。
１１日も石巻で作業。
街のスーパーマーケットの駐車場に集合するが、ＮＧＯ（ピースボート）の班長が来ない。
ピースボートなどのＮＧＯ、ＮＰＯの方々も全国から来る大勢のボランティアへ作業指示や資材手配などをしなければならないので、かなりしんどいと思う。
別のボランティアチームから班長さんの携帯電話番号をゲットし作業確認をしたところ、民家からのボランティア要請にお応えするとのこと。
そのお宅は、建物は立っているが１階天井まで喫水線があり、すべてを撤去するしかない。床にはヘドロ。大事な代物までムチャクチャ。
昨日のおばあさんと同様に、このお宅の奥さまも精神的に疲労困憊の表情。だけども、前を向いて少しずつ少しずつ片づけをしている。
人一人の力なぞ、たいした事はないけど、沢山の人が集まり、街の復興に役立てばと思う３日間だった。
今、なにができるか。やらなきゃいけないか。
僕はオツムが弱いので力仕事しかない。第１次支援隊では目一杯力を出した。
と思う。
家に帰ってきて、高校３年生の娘が状況を教えてと。そして支援隊に参加したいと。こんな父でも娘に「今、なにができるか。やらなきゃいけないか」が伝わったのかな。
そして、僕達は山ヤです。しかも強い山ヤです。復興支援に協力するし、しっかりと登山もしなければならない。登山に自粛は似合わないから。

最後に、支援隊で仕事ができたことは、支援隊キャップの吉田理事長、広木県連会長、それと支援隊の皆さん、県連のみなさんに感謝するばかりです。
次の支援でもどうぞよろしくお願いします。

気仙沼・鮪立（しびたち）の
被災地です。
電柱は折れ、家屋が破壊されて
ガレキの山になっている。

東日本大震災ボランティアに参加して

ＡＣＴ峰友　小谷直行

４月９～１１日まで、宮城県気仙沼市、石巻市のボランティアに参加したので、その感想を述べさせていただく。
８日夜松戸駅前を５台の車に分乗して出発、途中サービスエリアで仮眠し９日朝、気仙沼市唐桑半島の拠点に到着。当日は雨天のため作業は中止となる。
こちらでの作業は、崩壊した民家からの家具等搬出と、家主の要望による貴重品（思い出の品物、アルバム、位牌等）探しとの事。
待機時間を利用し、市内の状況を見に行かせて頂く。跡形無く土台だけ残している住宅、瓦礫の山と化している建物等惨状を目の当りにしてただ唖然とする。
そして、つながっている起伏の有る道路の起の部分、おそらく標高差は３～５メートルであろうかは、津波の被害は想像も出来無く平常に建っている、とゆうなんともやるせない風景が展開している。
１０日は石巻で応援を求めていると事で、石巻の仕事に参加することとした。
拠点となる石巻専修大学のグランドには１人用から２０人位用まで３００以上のテント村が出来、数多くの人が以前から来ている様子であった。
ここでの仕事は、夜の繁華街と思しき幅３メートル長さ３００メートルほどの街路の清掃。最大３０センチ位のドロドロのヘドロの上に、大小の家具が積み上げられているのを、これらを除去し、片付け重機が入れるようにする。
飛び入りで、年配の女性一人住まいの住宅の片付けが入りそちらの方も手がける。避難所から帰ってきて、我々に遭遇し片付けを依頼した、との事。
屋内は一ヶ月経過しているにもかかわらず、畳が散乱し、その上に生のヘドロが堆積している。ここらあたりは地上２メートル弱のところに、汚れた水線がありここまで浸水したことを示している。
箪笥は水を吸って引き出しが開かず、壊して中のものを確認する。大事な衣類を取り出し、「洗濯したら使えるだろうか」と聴かれて返す言葉が無い。
被災後、丁度一ヶ月たって手付かずのこの状況に、今後の復興の厳しさに暗澹たる思いに駆られ、先行きの長さをひしひしと感じた。
１１日午前は、別の老夫婦二人の個人宅の清掃に回り、車庫の片づけを行った。
このお宅も一階は浸水し、二階で生活している模様。奥様は疲労困憊の様子であったが「皆さん頑張っておられますから」と寂しそうに言っておられた。
このお宅は、ご主人の趣味が箆鮒つりとの事で、数多くの道具が保管してあり、ご主人が不在との事で出来るだけ選別して整理したが、多くは廃品となるであろう。長年の思い出の品が消えてしまうことに、やるせない無常を感じる。
被災地の復興にはまだまだ多くの時間とマンパワーが必要とされており、我々が登山の時間と費用の一部を割き、この一助となればと強く思う次第です。

第１回教育遭難対策委員会報告

■ 日時　４月１８日　１９：００～２０：３０
■ 場所　県連事務所
■ 出席者　　岡田（船橋）高橋（東葛）　三辻（こまくさ）星野（かがりび）
　　横山（ちば山）　（救助隊と合同）
■ 議題
●事故報告
松戸山の会 男性 36 歳、 丹沢・広沢寺で岩トレで、リード中に４ｍ滑落し、左足を骨折した。
●前年度事故の検討
・ こまくさＨＣ　下山報告漏れで後日事故が判明した件
下山連絡の担当がモレを無くすべく留意する旨の報告がされた。
しかし、下山連絡の受け手が単独で固定されていては、負担が大きく連絡もれを防止出来ない。下山連絡の輪番制が適切との助言を行う事とした。
■ 次回委員会予定（救助隊と合同）　５／１６（火）19:00～県連事務所

（文責 岡田）

第１回　拡大検討部会　報告

＊ 実施日時　　４月２８日（木）１９時～２１時
＊ 実施場所　　ちば県連盟事務所
＊ 参加者　　岳人あびこ・東葛山の会・こまくさＨＣ・船橋山の会
　　ちば山の会　（気仙沼支援隊に参加のため欠席が多かった）
＊ 議題
・ 全国連盟より提案された「個人会員制度」の検討。
・ ちば県連の個人会員制について。
・ 個人会員制の山行管理について。
・ 拡大検討部会の活動について

＊ 第１回の拡大部会であったが、大震災支援と日程が重なってしまった。参加人数が少ない事も視野に入れて実施した。
＊ 個人会員制の実施だけにこだわらず、県連盟の組織強化・加盟各会が元気になる活動も重要である。
＊ 各会の代表の参加で、意見を反映出来る拡大検討部会としたい。

◆ **次回、拡大検討部会は５月２７日（木）１９時～２１時　県連事務所　です。**
各会より、大勢の参加をお願いします。

（報告者　広木　国昭）

第二回ハイキング委員会報告

◆　４月２５日　県連事務所

◆　出席者　桑原、八巻、大田、小山、川上、中原、吉沢、高見、佐藤、9名

震災犠牲者に対して黙とう

◆　議題

１、　第１５回　平日山行　実施

春　　2011　年5　月　12　日（木）

玉原高原　　ブナと残雪と水芭蕉

ルート　玉原湿原～尼ヶ禿山（往復）約5時間　詳細は別途参照

Ｂ車・バス中型（28人乗り）　Ａ車・マイクロバス（19人乗り）

Ａ車　千葉駅（ＮＴＴ前）6：30　集合出発

Ｂ車　鎌ヶ谷市役所6：00～我孫子駅6：30～新松戸流経大前7：00

集合　出発　（高坂ＳＡ合流出発）

参加者　松戸10・東葛7・かがりび5・シリウス1・こまくさ1

ふわく16・市川1・茂原1・　42名

スッタフ　　ＣＬ　桑原、ＳＬ　小山、会計　佐川、班長　各会・

記録各会、無線　桑原、名札　桑原、しおり　吉澤

アイゼンその他は必要ありません。入浴の用意はして下さい。

2、　24回　ロングハイキング実施決定

月日　　2011年12月03日（土）～04日(日)　会員のみ。

山域　　①　追原～四朗治コース

昨年のリベンジとして催行します。

七里川温泉には桑原が手配のこと。

3、ちばニュース掲載引き続き行う事にする。

タイトル（山への想い）雑感

原稿掲載の順番　　5月小川、6月佐藤、7月吉田　以降は隔月にするか検討

前月の20日までに「ちばニュース」新規送付先決定次第報告します。

部員決定まで danphiro@zpost.plala.or.jp 広木会長まで。

◆　その他

ボランティア支援隊報告

ふれあいハイキング実行委員募集5月7日（土）午後6時から障害者スポーツ・リクレーションセンターにて第一回打ち合わせがありますので１人でも良いので出席下さい。

次回委員会　2011年　06　月14　日　(火)　　19：00～　　県連事務所

第２回救助隊定例会報告

日　時：平成２３年４月１８日（月）　１９：００ー２１：００
場　所：県連事務所
出席者：高橋隊長、横山副隊長、平井、山本、徳永、神山、加倉井、角掛
　　（(教育遭難対策委員会と合同）
議　題
１）新年度になり隊員の入れ替え等が有ったので、名簿更新を事務局長にお願いする。　　松戸：渡辺→岡崎、かがりび：木村は脱退　他
２）５・６月の初心者向け講習会は延期する（実施時期は未定）
３）１１月の「事故防止・経験交流集会」は開催予定
４）今年度から、交通費は毎月ではなく４ー９・１０ー１２・１ー３月の３回に分けて請求し、支払いを受けることになった。

次回例会　５月１６日（月）１９：００ー　県連事務所にて
（教育遭難対策委員会と合同）

第２回自然保護委員会

・　県連事務所　2011.４.１４　19:00～20:30
・　参加者　　外山(こまくさ）荻野(こまくさ）高橋(岳人あびこ）
　　小林(松戸山翠会）春日(ふわく) 菅井(ちば山）
・　議題　　１、クリーンハイク計画
　　・県統一クリーンハイクを５月２９日に鬼泪山で実施する。
　　・各会独自の計画
　　こまくさＨＣ　養老渓谷　岳人あびこ　江戸川実施済
　　市川山の会　　三番瀬　　松戸山の会　江戸川河川敷（２ｋ）
　　山翠会
　　２、千葉の里山について
　　１２月頃　観察山行を開けるようにしたい
　　３、足尾植樹デー　「足尾に緑を取り戻す会」の紹介

松戸山の会　クリーンハイキングＩＮ江戸川

実施日　　2011 年 4 月 10 日
コース　　松戸駅西口先　　江戸川河川敷　下流へ 2 キロまで
タイム　　ごみの収集　　9：30～11：30
参加者　　30 名

江戸川の水は私たちの大切な水道水になっており、江戸川をきれいにすると云うことはすなわち「美味しい水が飲める」と云う事です。
原発の放射能漏れの影響で水道水が汚染されたとの事だが、これは大変な問題です。水は命　川は母であります。
　今回のクリーンハイクは30名の参加者を得て江戸川の河川敷で盛大に実施されました。ごみの種類としてはペットボトル、空き缶、自転車の残骸、毛布、等、下記の如く 207 キロのごみが収集されました。一年で又こんなに出るとは驚きです。今回は終了後の花見会は自粛して中止しました。

（収集量）

可燃物	63 キロ
不燃物	125.5 キロ
資源物	18.5 キロ
計	207.0 キロ

（梅澤　記）

以上

クリーンハイクは全国的行事です。
　千葉県連盟は、県連統一クリーンハイクとして各会の参加をお願いして、５月２９日（日）に「鬼泪山クリーンハイクと勝利報告会」を実施します。
　また、各会が計画・実行する、身近な所のクリーン行事・毎年決まった場所のクリーン作戦も実施しています。
　各会で実施したクリーンハイク・クリーン作戦を、自然保護委員会にお知らせください。

自然保護委員会からの報告

１、鬼泪山クリーンハイクと勝利報告会

ちばニュース４月号でお知らせした、県連統一クリーンハイク「鬼泪山」が間近になりました。労山自然保護憲章にもあるように、里山の豊かな環境を守る運動も我々山を愛する会員の大切な事と思います。多くの会員の参加をお願いします。

（１）《行動スケジュール》

- **日　時　２０１１年５月２９日（日）　小雨決行**
- **集　合　佐貫町駅に　９：００　集合**
  車での参加の方に分乗し佛母寺の駐車場に移動
- 鬼泪山を守る会と佛母寺で合流
- クリーンハイク予定地　　鬼泪山への林道入口～鬼泪山林道
- 作業時間　　10:10～12:00
- **午後　13:30～15:00　興源寺にて鬼泪山勝利報告会（地元と交流会）**

（２）《個人で用意するもの》

- 通常山に行く時の装備　飲料水　軍手　雨具　昼食
  付近には、コンビニ等はありません、昼食は必ず持参下さい。

２、第 16 回足尾植樹デー参加報告

鉱毒ではげ山になった足尾に緑を取り戻そうという植樹運動にちば山から４名が参加しました。

２３日はあいにく小雨が降る寒い日でしたが、遠くからもバスを連ねて参加する小学生達も沢山いました。植樹場所は銅親水公園の向かい側、鉱毒で赤茶色なった山に柵を作り、土を運び上げた場所です。
私たちも袋に土と苗木を入れ 600 段もの急な階段を上った場所に植樹した。

その後、栃木労山山岳救助隊の皆さんのお手伝いとして一般の参加者の安全確保作業を行った。午後、植樹運動に熱心に取り組んだ立松和平氏の石碑の除幕式に参加した。

２４日は快晴となり足尾の山々がすべて見渡せた。今まで植樹したところの木々も中々育っていない様だ。緑になるには大分先の様だ。
一度壊された自然の回復には莫大な費用と労力と日数がかかる事が改めて思い知らされているようだ。２日目も同様に植樹し、午後岐路についた。

足尾の山に１００万本の木を植えよう！を合言葉に実施されています。
春の植樹デー」は、1996 年の第１回に 160 名が参加して 100 本の苗木を植えてスタートしました。これまで参加者延べ 13,160 人・5 万本を植樹。1 年に 1 万本植えても、100 年掛ります。着実に続けて行くことが大切です。千葉県連からも多くの参加をお願いします。

拡大の武器

労山ガイド完成

・Ａ―４　裏表　カラー印刷　上の２種類を入れて３種類あります。
　　表面イラストは、かがりび山の会・石井さんの力作です。
　　裏面には、２１加盟会の紹介です。
・ふわくＨＣ・小宮さんが、構成・作成を担当しパソコンを駆使して作成しました。同会の佐藤さんが監修・アドバイスをして出来上がりました。
・カラー印刷ですので、用紙代・印刷代が予定より高額になりました。
　現在、紙質を変えて大量配布用を作成しています。
　各会での、拡大活動に、ぜひ利用して下さい。
・地域別のガイドブックの検討を進めています。
　１、東葛・松戸・柏・我孫子　地域版。
　２、千葉・船橋・市川　地域版。
　３、市原・木更津・君津　地域版
　４、空白　地域向け

・問合せ・配布受付は
　　県連盟ホームページ「事務局への問合せ」
　　広木（danphiro@zpost.plala.or.jp）　　まで。

県連たより

県連盟連絡先

◎　千葉県勤労者山岳連盟事務所
〒262-0033
千葉市花見川区幕張本郷 1-29-18
レジデンス幕張台 101 号室
ＴＥＬ・ＦＡＸ　043-306-1190
Ｅメール
rousanchiba@grape.plala.or.jp

◎　千葉県連ホームページ
http://www.cwaf.jp

◎　「ちばニュース」原稿送付先
newstoukou@cwaf.jp

◎　事故一報
教遭委員長・岡田　賢一
ken-ichi@f4.dion.ne.jp
Ｆａｘ：043-271-4704

◎　連盟費振込み
郵便振替口座　00160-3-481509
千葉県勤労者山岳連盟

◎　東北関東大震災・支援金振込み
口座番号：ゆうちょ銀行
00130-7-595190
加入者名　　佐藤　勝子
〒272-0023
市川市南八幡　1-25-16

県連盟よりのお願い

東日本大震災の被災地支援に、各会から多数の参加をいただいています。千葉県連は、栃木県連と協力して「気仙沼」を中心に活動を行っています。今月からは、宮城県連の要請を受けて「石巻」にも支援隊を送りたいと思います。会員宅の後片付けは目鼻が付き、農地に堆積した泥の除去が中心になるとの連絡が入っています。
「石巻」はテント泊になります。テント・寝袋・マット+食料・自炊道具が必要です。気温も上がり、作業もきつくなります。同時に衛生面にも十分な配慮が必要です。体調管理は、万全でお願いします。

記念トレッキング

全国連盟の５０周年記念ブータントレッキングは、諸般の情勢を考慮して中止になりました。（2012 年に再度検討する）
千葉県連盟の 45 周年記念トレッキングは、10 月に実施します。
取り組みは大幅に遅れています。連休があけたら一気に進めたいと思います。
参加者の手つくりトレッキングにしたいと思います。ネパールトレッキング経験者の協力をお願いします。

編集後記

支援隊に参加した感想・報告が寄せられました。現地に行った方ならではの報告ありがとうございます。皆さんの報告を読んでいると、被災地で懸命に生活している人々を思い出しました。長期間の支援が必要な事を実感しました。引続いての支援活動をお願いします。（danp）

千 葉 県 連 予 定 表

5月			6月		
1	日		1	水	（船橋山の会）
2	月		2	木	
3	火		3	金	
4	水		4	土	
5	木		5	日	
6	金		6	月	機関紙委員会予定（第3回）
7	土		7	火	県連役員会（第4回）
8	日		8	水	（船橋山の会）
9	月	機関紙委員会予定（第2回）	9	木	
10	火	県連役員会（第3回）	10	金	
11	水	（船橋山の会）	11	土	
12	木	ウィークデイ・山行玉原高原	12	日	
13	金		13	月	
14	土		14	火	ハイキング委員会
15	日		15	水	（船橋山の会）
16	月	救助隊・教遭委員会	16	木	県連理事会（第4回）
17	火		17	金	
18	水	（船橋山の会）	18	土	
19	木	県連理事会（第3回）	19	日	
20	金		20	月	救助隊・教遭委員会
21	土		21	火	
22	日		22	水	（船橋山の会）
23	月		23	木	拡大検討部会（7月28日に延期）
24	火		24	金	
25	水	（船橋山の会）	25	土	
26	木	拡大検討部会	26	日	
27	金		27	月	
28	土		28	火	
29	日	県連統一クリーンハイクin鬼泪山	29	水	（船橋山の会）
30	月		30	木	
31	火				
10	火	全国新特別基金委員会（鶴田副理事長）	14	火	全国新特別基金委員会（鶴田副理事長）
17	火	全国理事会（広木会長・岡田教遭委員長）	18	土	全国新特別基金担当者会議（未定）
			21	火	全国理事会（広木会長・岡田教遭委員長）

ご感想・ご意見をお待ちしています。（ホームページ、事務局への問合せまで）
皆様のご要望に応えられる「ちばニュース」を目指しています。